朝の樹

松岡隆子

誰も見あげて囀の朝の樹

空つぽの巣箱や朝の日の余り

山の端に夕日染み入る巣立鳥

栞二周年

若蘆の明日へ丈を揃へけり

水音のしづかに高し花万朶

水の面の膨らんでくる桜かな

母の忌の落花は水に放ちけり

桜湯をふふみて母とゐるやうな

一の坂二の坂春の深みつつ

春愁の土手の長さを折り返す

飛花落花わが双肩のおぼつかな

ペンを擱く音も朧の中にかな